

令和6年度 前年度の改善方策について実行した改善結果
(学校関係者評価委員会からの報告を受けて)

赤松学舎 世田谷区立松沢中学校
校長 大塚 洋一

1 互いを尊重し、認め合う「心」をはぐくむ教育の推進

- (1)教育相談体制を充実させる。
- (2)道徳授業や人権教育を通して、多様性や命の大切さを理解し、尊重する豊かな心を育む。
- (3)学校生活や行事を通して、自尊感情や認め合う力、よりよい人間関係をつくりあげる力を育てる。

【改善結果】

「先生たちは相談しやすい」(生徒)肯定的評価 76%

→年々肯定的評価が着実に高まっており、一昨年度から実施している1・2年生対象のハートフル面談の感想では、95%以上の生徒が「楽しかった」「思っていることを話すことができた」と回答していることから、ハートフル面談が有意義であり、着実に成果となって表れてきている。しかし、一部、授業に関する質問であったりすることから、実施時期の検討も必要である。

「私は思いやりの心や認め合う心をもって友達や他の人と接している」(生徒)肯定的評価 89%

→「特別の教科 道徳」では学年ローテーションを実施し、いじめや人権問題など様々な題材を取り上げるとともに、他の生徒の考えを知り価値観を広げるため授業の『振り返り』を大切にしている。
→学級が基本であるが、行事における上級生・下級生など他学年や他の学級との関わりを通して、協調性や思いやりの心を育てることができた。

「学校行事は達成感がある」(生徒)肯定的評価 90% (前年比+4%)

→3年生は昨年度より8%増加するなど、肯定的評価は高い数値を維持した。
→教員が学校行事を「生徒自身で責任をもったり、仲間意識を深めたりする」機会ととらえ、指導にあたっていることが生徒にとって達成感のある有益な活動となり、生徒の自己有用感、自己肯定感につながっている。

2 確かな「社会力（これからの社会を生き抜く力）」をはぐくむ教育の推進

- (1)意図的・計画的な活動の取組により、生徒の自治意識を高める教育を推進する。
- (2)あいさつ、時間を守る、迷惑をかけないなど基本的生活習慣の定着、規範意識の醸成を図る。
- (3)3年間を見通したキャリア教育の展開とキャリア・パスポートの活用、および保護者への情報発信。
- (4)個に応じた学習指導、生活指導、進路指導等、組織的に対応し、個別最適化を図る。

【改善結果】

「委員会や係活動に積極的に取り組んでいる」(生徒)肯定的回答 79%(前年比-3%)

→-3%と減少したが、肯定的回答 79%は積極的に取り組んでいることが伺える。
→誰もが希望した委員会で活動できるものではないことや受け身的な生徒へ資質能力の向上を目指すには、教員の意図的・計画的な設定が必要である。

「自分から挨拶をしている」(生徒)肯定的回答 86%

「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している」(生徒)肯定的回答 94%

→近年で最も高い数値であり、適切な指導と生徒の意識の高さと相乗効果があると感じる。

→生徒ヒアリングでは「松沢中のルールは厳しい」という声もあり見直すことも必要であるが、94%という数値は生徒と教師の信頼関係が築けているのではないかと思う。

「キャリア・パスポートや進路、将来の仕事に関するアンケート

(生徒)肯定的回答平均 70% 否定的回答平均 12%

(保護者)肯定的回答平均 54% 「わからない」平均 28%

→肯定的ではない回答が約 30%と若干多いのは、「進路を扱う授業が他の授業に比べ回数が少ない」、「進路＝進学（高校）と思っている」と考えられる。大きな枠でとらえる「キャリア教育」学習であることが必要であることを伝えていく。

3 自ら学ぶ力、探究的な「学び」の推進

- (1)「探究のプロセス」から学び方の習得につながる「探究的な学び」を推進する。
- (2)タブレット端末等 ICT を活用した「わかりやすい授業」「学習効果のある授業」を推進する。
- (3)言語活動を基盤とした自分の考えを発信する学びを取り入れる。
- (4)外部講師活用による体験活動を行うことで、多様性の理解・尊重、多文化共生社会を生きる力を身に付けさせる。

【改善結果】

「先生は ICT を利用し、わかりやすい授業をしている」(生徒)肯定的回答 87%

「課題について自分で考える、友達と話し合う時間がある」(生徒)肯定的回答 93%

「授業で考えたこと、話し合ったことを発表する場がある」(生徒)肯定的回答 94%

→昨年比、変化なしまたは 1%減であったが、たいへん高い数値での肯定的回答であった。

→教科によって取り扱い方が違うが、話し合い活動、課題解決学習、ICT の活用などそれぞれ工夫した結果があらわれた。探究的な学習が個人の学び方の向上につながるよう今後も務めていく。

4 信頼と誇りの持てる教育の推進

- (1)学校経営方針、重点取組項目、防災教育(安全指導)について地域・保護者に発信する。
- (2)教育資源活用による「職場体験」「ボランティア活動」の充実を図る。
- (3)各種たより、ホームページ、学校メール(すぐる)などの広報活動を充実させる。

【改善結果】

「本校は保護者に重点目標を伝えている」(保護者)肯定的回答 57%

「地域の人や施設を教育活動に生かしている」(地域)肯定的回答 71%

「ホームページやメールなどで保護者に情報を提供している」(保護者)肯定的回答 80%

→地域での職場体験実施、音楽祭への吹奏楽部参加など地域とのつながりは良好であり、今年度より日本大学学生による質問教室なども行った。

→すぐるによる情報提供は有効であったが、ホームページの充実にはもう少し努力が必要である。学校からの発信は良好に受け止められているが、個人の関わりや姿勢となると意識が低い回答となった。